

## 多文化共生①

南小学校には、4月現在588名の児童の内、114名の外国籍の児童と一緒に生活しています。114名の子たちの国は、中国、ベトナム、バングラデシュ、トルコ、フィリピン、インド、ブラジル、ペルー、ドミニカ、アメリカ、チュニジアの11カ国になります。「学校通信」で日本を含めてこれらの国々を紹介し、少しでも文化や習慣などの違いが理解できたらと思います。今回は日本のお隣、中国を紹介をします。

### 中華人民共和国 People's Republic of China

中華人民共和国の国旗は「五星紅旗」ともいわれる。国旗の赤は共産主義のシンボルの色。大きな星は中国共産党を、4つの小さな星は労働者、農民、知識階級、愛国的資本家の人民を表している。国旗の星の5つの光は、中国では昔から完璧を表すものとされ、国民の一致を示すものとされている。



- ・人口 約13億7930万人
- ・国土の面積 959万6960km<sup>2</sup> (日本の25倍)
- ・首都 ペキン(北京) Beijing
- ・民族 漢民族、チワン族、ウイグル族、イ族など55の少数民族
- ・言語 漢語(中国語)、少数民族言語
- ・宗教 道教、仏教、イスラム教、キリスト教、など
- ・通貨 人民元
  
- ・気候 全体的に温帯に属し、西乾東湿、北冷南暖の気候である。西部は大陸性気候で、モンゴルからタリム盆地にかけてステップと砂漠が広がり、チベット高原などの山岳地帯は高山気候である。東北地方は冬に寒冷な大陸性冷帯湿潤気候で、黄河、揚子江流域の華中は温帯モンスーン気候、華南は亜熱帯モンスーン気候である。
  
- ・産業 農業では、革命の象徴であった人民公社は、生産性が向上しないことから85年までに解体され、市場原理を重視した生産請負制を取り入れ増産に成功、萬元戸とよばれる富農が出現している。農産物輸出が激増し輸出総額の1割を超えるが、いっぽうで肉食の増加に伴う穀物需要の増加は飼料用穀物を輸入する事態を招いている。これをおぎなうように、外洋、内水面を含め漁業が急成長している。  
工業では従来の軽工業に加え、重化学工業や電子産業の伸びが著しい。郷鎮企業とよばれる農民による小規模農村工業と外資系企業が牽引してきたが、国営企業も民営化され競争力を獲得しつつある。工業製品の輸出量の増加は貿易摩擦を引き起こし、米ドルと連動する為替レートに対する不満も高まっている。

## 多文化共生②

### ベトナム社会主義共和国

Socialist Republic of Viet Nam

ベトナムは第2次世界大戦後の一時期、北ベトナムと南ベトナムの2つの国家に分かれていたが、ベトナム戦争の結果、1976年に北ベトナムによって1つの国家に統一された。

国旗は北ベトナムの使用していたもので、赤は革命で流した戦士の血を、黄色の星の光は労働者、農民、知識人、青年の団結を表している。



- ・人 口 約9616万人
- ・国土の面積 32万9560km<sup>2</sup> (日本の88%)
- ・首 都 ハノイ Hanoi
- ・民 族 ベトナム人、少数山岳民族、タイ人、クメール人
- ・言 語 ベトナム語、少数民族言語、フランス語、中国語
- ・宗 教 仏教、道教、カトリック、プロテスタント、イスラム教、など
- ・通 貨 ドン
  
- ・気 候 北部は亜熱帯モンスーンで7～6月が雨季、南部は熱帯モンスーンで8～9月が雨季である。全般に年間を通して高温多湿である。
  
- ・産 業 農業人口が7割を占め、米作を中心とした農業国。南部では2期作がおこなわれ輸出量は世界3位である。ほかにサトウキビ、ゴム、綿花、トウモロコシが栽培される。水産業も盛んで沿岸漁業と養殖がおこなわれている。地下資源では原油、石炭、鉄鉱石などが産出される。  
工業は旧ソ連の援助で重工業化が進められてきたが、技術者の引き上げや輸出の不振から、軽工業、手工業重視に転換した。とくに80年代後半からは「ドイモイ(刷新)」政策により市場経済化と貿易自由化が推進されている。近年ではエレクトロニクス産業も成長している。

## 多文化共生③

### バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh

バングラデシュは、はじめ東パキスタンと呼ばれていたが、インドをはさんで西パキスタンとはなれていて、言語、経済、宗教も違っていたので、1971年に分離して独立した。

国旗は緑がイスラムの宗教を、赤い丸は独立に流された血を表している。丸は風になびいても中央に見えるように少し旗竿側によっている。



- ・人口 約1億5782万人
- ・国土の面積 14万4000km<sup>2</sup> (日本の65%)
- ・首都 ダッカ Dhaka
- ・民族 ベンガル人、など
- ・言語 ベンガル語
- ・宗教 イスラム教、ヒンズー教
- ・通貨 タカ

- ・気候 典型的な亜熱帯モンスーン気候。南西モンスーンの吹く6～10月が高温多湿の雨季で、スコールとサイクロンが襲来し、国土の半分近くが水没することもある。世界有数の多雨地帯で年平均2000～3000mm。11～2月は北東モンスーンが吹き乾燥する。

- ・産業 農業国で米とジュートが基盤。ほかに茶、サトウキビの栽培とエビの養殖がおこなわれている。  
工業はジュート加工、皮革、縫製などの軽工業がおこなわれる。世界4位の米生産国であるが、生産効率が低い上に、人口過剰と水害のため食糧を輸入している。デルタ地帯という地理的条件もあり、インフラ整備の遅れが経済発展の障害になっている。海外への出稼ぎと援助に大きく依存している。

## 多文化共生④

### トルコ共和国 Republic of Turkey

トルコはアジアとヨーロッパとの文明の交わる所として有名である。

国旗は「三日月旗」といわれ、赤字に細い三日月と星が配されている。この三日月の紋章は、オスマン・トルコ帝国の皇帝が戦線を訪れたとき、三日月と星が輝いていたという故事による。三日月と星は進歩、国民の一致、独立を意味する。



- ・人口 約8084万人
- ・国土の面積 78万0580km<sup>2</sup> (日本の2.1倍)
- ・首都 アンカラ Ankara
- ・民族 トルコ人、クルド人、アルメニア人、など
- ・言語 トルコ語、クルド語、アラビア語
- ・宗教 イスラム教、キリスト教、ユダヤ教、など
- ・通貨 新トルコ・リラ
  
- ・気候 地中海沿岸は夏は高温乾燥、冬は温暖湿潤の地中海性気候、アナトリア高原は大陸性の乾燥気候、黒海沿岸は温暖で年間を通して雨が多い。
  
- ・産業 農業は、小麦、綿花、テンサイ、オリーブなどを栽培し、高原部では羊、山羊を飼育している。生産性が向上し、基礎的な食糧を自給している。牧畜と漁業も盛んである。地下資源はクロム鉱石、鉄鉱石、銅、マンガンを産出するが、量は豊富ではない。  
工業は繊維などの軽工業を中心に幅広くおこなわれる。重工業の比率は小さい。海外への出稼ぎ労働者も多い。EU加盟を目指し、経済改革が進められている。

## 多文化共生⑤

### フィリピン共和国 Republic of the Philippines

国旗の白い三角はフィリピンの自由を、3つの星はルソン、ミンダナオ、ビサヤの主要な3つの島、8条の光をもつ星はスペインから独立したときの8つの州を表している。国旗の白は平等を、青は平和を、赤は勇気を表している。この国旗は戦争が始まると天地を逆にして赤を上にし、国民の勇気を奮い立たせるという。



- ・人口 約1億0425万人
  - ・国土の面積 30万0000km<sup>2</sup> (日本の80%)
  - ・首都 マニラ **Manila**
  - ・民族 マレー系セブアーノ人、中国人、スペイン人、少数民族
  - ・言語 フィリピノ語、タガログ語、英語、など
  - ・宗教 カトリック、プロテスタント、イスラム教
  - ・通貨 フィリピン・ペソ
- ・気候 高温多湿の熱帯モンスーン気候。南西モンスーンが吹く5～11月が雨季で、スコール性の雨が降り台風の襲来も多い。南部のミンダナオ島は熱帯雨林気候である。
- ・産業 労働人口の半数近く農漁業に従事する。米、トウモロコシなどの自給用作物と、バナナ、ココナツ、サトウキビなど輸出用の商品栽培される。しかし大地主制のため生産性が低く、また商品作物が中心であるため、食糧を輸入している。林業も盛んであったが、皆伐され深刻な環境問題を引き起こしている。タンパク源として漁業も重要。地下資源が豊富で鉄鉱石、銅、ニッケルなどが産出される。
- 工業は従来からの軽工業に加え、海外からの投資により電子部品や機械部品が伸びている。出稼ぎ労働者からの送金が最大の外貨獲得源である。

## 多文化共生⑥

### インド India

インドは 3000 年も前にインダス文明が栄えていた歴史の古い国である。1947 年にイギリスの植民地から独立した。

国旗は中央の糸車のような紋章は、チャクラといって、3 世紀頃のインドの神殿の柱にある飾りものである。24 の車軸は一日の時間を表し、オレンジ色はヒンズー教、緑はイスラム教、白は平和を表している。



- ・人 口 約 1 2 億 8 1 9 3 万人
- ・国土の面積 3 2 8 万 7 5 9 0 km<sup>2</sup> (日本の 8. 4 倍)
- ・首 都 デリー Dehi
- ・民 族 インド・アーリア人、ドラビダ人、など
- ・言 語 ヒンディー語、英語、など
- ・宗 教 ヒンズー教、イスラム教、キリスト教、シーク教、仏教、ジャイナ教
- ・通 貨 インド・ルピー

- ・気 候 山岳地帯は高山気候、ガンジス川中上流は温帯、西部のパキスタン国境地帯は乾燥気候、沿岸部とデカン高原は熱帯サバンナ気候である。モンスーンの影響が強く、冬季には北東風、夏季にはインド洋から吹き込む南西風が卓越する。この南西風の影響で西海岸やヒマラヤ山麓には多量の降雨がある。特にアッサム地方は世界最多雨地の 1 つ。

- ・産 業 労働人口の 7 割近くが農民で生産量も増加している。米、小麦、綿花、茶などを産する。畜産は耕作用、乳用の牛と水牛が多い。漁業は河川と沿岸でおこなわれていたが、遠洋漁業もはじまった。しかし大土地所有制でもとで人口が急増し、下層階級の生活は貧しい。地下資源では鉄鉱石、石炭、ダイヤモンドなどが豊富であるが、石油と天然ガスは需要を満たさず、輸入している。

工業はかつての主役であった綿織物から人口衛星まで、あらゆるものを生産しているが、基幹産業が国営であったため輸出は振るわなかった。独立後、計画経済で産業の基礎を築いたが、しだいに停滞の度合いを強めた。91 年に発足したラオ政権は、規制緩和、競争原理導入などの自由化政策を打ち出し、外国資本と技術の積極的誘致を図った結果、成長路線に乗せることに成功した。近年では情報産業などが急成長している。

## 多文化共生⑦

### ブラジル連邦共和国 Federative Republic of Brazil

ブラジルとはこの土地にたくさんあった赤い染料をつくる木の名前から名付けられた。

国旗は緑は豊かな森林資源を、黄は鉱物資源を、青い円は天体を表している。27 個の星は首都と州の数。中央の帯には「秩序と進歩」と書かれている。青い天体の色は国旗が制定されたときの首都リオデジャネイロの空の色である。



- ・人 口 約2億約0735万人
  - ・国土の面積 851万1965km<sup>2</sup> (日本の22.5倍)
  - ・首 都 ブラジリア Brasilia
  - ・民 族 ヨーロッパ系、ムラート、メスティーソ、アフリカ系、など
  - ・言 語 ポルトガル語
  - ・宗 教 カトリック、など
  - ・通 貨 レアル
- ・気 候 アマゾン流域は熱帯雨林気候で降水量は 2000mm 以上である。ブラジル高原はサバナ気候で、5～8月は高温乾燥となる。南部は温帯気候、海岸平野は温帯から亜熱帯気候である。
- ・産 業 世界有数の農業国で、コーヒー、サトウキビを中心に、大豆、トウモロコシ、綿花、オレンジが大量に栽培されている。コーヒーの生産量は世界一である。牧畜では肉牛が飼育されている。いずれも世界中へ輸出されている。しかし回復困難な熱帯雨林を農地と放牧地に開発したため環境破壊が深刻な問題になっている。地下資源では鉄鉱石、ボーキサイト、マンガン、石炭、金などが豊富に産出される。大規模な水力発電所がいくつもあり、電力の8割を水力でまかなうことができる。またサトウキビから自動車用アルコール燃料が作られる。
- 南米随一の工業国でもあり、一次製品の加工だけでなく、鉄鋼、自動車、機械、兵器も生産される。60年代以降外国から巨額の融資を受けて開発を進めたために、石油危機によってインフレと対外債務が深刻化した。90年代半ばから南米共同市場（メルスコール）の創設、基本産業の民営化、新通貨の導入などを実施したことでインフレは沈静化した。しかし99年にはロシアの通貨危機の影響で変動相場制に移行、レアルはさらに下落した。

## 多文化共生⑧

### ペルー共和国

Republic of Peru

ペルーはスペインの支配から 1821 年に独立した。この独立戦争の時、ホセ・サンマルチン将軍の革命軍に、突然、翼が赤く胸の白い数羽の紅鶴が現れた。これを見た将軍は「白と赤が自由の色になるだろう」といい、この言葉が国旗の色となった。赤は勇気と愛国心、白は平和と進歩・名誉を示すと言われている。



- ・人口 約 3 1 0 3 万人
  - ・国土の面積 1 2 8 万 5 2 2 0 km<sup>2</sup> (日本の 3. 4 倍)
  - ・首都 リマ lima
  - ・民族 インディオ、メスティソ、ヨーロッパ系、東洋系、など
  - ・言語 スペイン語、ケチュア語、アイマラ語
  - ・宗教 カトリック、など
  - ・通貨 ニエボ・ソル
- ・気 候 沿岸部はほとんど雨の降らない砂漠気候で、低緯度であるがフンボルト海流の影響を受けてあまり暑くはならず、雲や霧が多い。山岳部は全般に乾燥した高山気候。東部は高温多雨の熱帯雨林気候である。12 ~ 4 月が乾季で、6 ~ 10 月が雨季。
- ・産 業 農業ではサトウキビ、ジャガイモ、トウモロコシ、コーヒーなどが栽培される。牧畜では羊、アルパカ、ラマが飼育される。大規模な農場は狭い海岸地帯に限られ、山岳地では零細な自給農家がほとんど。輸出用の商品作物が多いため、穀類や肉類を輸入している。ココアの生産量は世界有数である。林業ではバルサ材や生ゴムを産する。漁獲高は世界屈指で、アンチョビーが水揚げされフィッシュミールとして輸出される。地下資源は豊富で、銅、銀、亜鉛、鉄鉱石、石油を産し、主要な輸出品である。電力は 8 割以上を水力でまかなう。
- 工業は一次製品の加工が中心であるが、鉄鋼、化学製品、輸送機器などを生産する。80年代にはハイパーインフレに見舞われ、対外債務を返済できない事態に陥ったが、90年から緊縮財政、民営化、変動相場制への移行などの対策が実施されて沈静化した。しかし貧困層の生活水準はさらに低下した。

## 多文化共生⑨

### ドミニカ共和国

Dominican Republic

国旗はハイチの国旗を元にしてつくられた。赤は独立のために流された血を、青は平和、白の十字架は汚れのない精神を表している。中央は国章で、中心に聖書と十字、その両側を槍と旗と月桂樹とシュロが囲んでいる。上の青いリボンには「神・祖国・自由」の文字が、下の赤いリボンには国名が書かれている。



- ・人口 約1073万人
  - ・国土の面積 4万8730km<sup>2</sup> (日本の13%)
  - ・首都 サントドミンゴ **Santo Domingo**
  - ・民族 ムラート、ヨーロッパ系、アフリカ系、など
  - ・言語 スペイン語
  - ・宗教 カトリック、など
  - ・通貨 ドミニカ・ペソ
- ・気候 亜熱帯の海洋性気候。雨季は5～11月で北東貿易風の影響で北部と東部の沿岸は降水量が多くなる。6～11月にはしばしばハリケーンが襲来する。
- ・産業 農業は、サトウキビ、コーヒー、バナナなどの大規模なプランテーションと、米や家畜などの小規模な自給農業にわけられる。漁業は沿岸漁業が中心で、マグロ、サバなどが水揚げされる。地下資源では、ニッケル、金、銀などを産する。ボーキサイトは採り尽くした。  
工業は砂糖製造が中心で、そのほかは国内向けの小規模な軽工業程度である。観光産業の育成や自由貿易地区の設置がおこなわれている。

## 多文化共生⑩

### アメリカ合衆国 United States of America

アメリカの国旗は「星条旗」と呼ばれ、独立宣言をした翌年の 1777 年に制定された。初代大統領ワシントンは、この旗を「星は天を、赤は母国なるイギリスを、赤字を横切る白い条は母国イギリスからの独立を表す」といつている。13 の条は独立したときの州の数を、50 の星は現在の州の数を表している。



- ・人口 約3億2662万人
- ・国土の面積 982万6630km<sup>2</sup> (日本の25倍)
- ・首都 ワシントンD.C. Washington D.C.
- ・民族 ヨーロッパ系、アフリカ系、ヒスパニック、アメリカ・インディアン
- ・言語 英語
- ・宗教 プロテスタント、カトリック、ユダヤ教など
- ・通貨 アメリカ・ドル
  
- ・気候 全般には温帯気候に属しているが、中北部は亜寒帯、フロリダ半島は亜熱帯、西部の一部には極端な乾燥気候がみられる。東海岸は夏は高温多湿、冬は低温乾燥の四季がはっきりした気候を示す。西海岸の北部は温暖湿潤気候、南部は地中海性気候である。中央平原は西へ進むにつれて降水量が少なくなる。
  
- ・産業 農業は労働人口では2%、総生産に占める割合ではそれ以下に過ぎない。しかし広大な国土と高度に機械化された大規模経営で高い生産性を達成し、穀物と畜産物を中心に世界最大の農業生産国、農産物輸出国となり、世界の食糧事情に大きな影響力を持つ。林業も盛んであったが、環境保護の必要性から生産量は減少している。漁業も広範におこなわれ、特にアラスカ周辺での漁獲量が大きい。地下資源は多種多様で、鉱物、化石燃料ともに豊富である。しかし石油は消費量が膨大で、半分を輸入に依存している。世界で生産される石油の4分の1を消費している。  
工業は南北戦争後に急速に発展を遂げ、第一次大戦後には世界一の工業国となった。70年代になるとアジアなどからの工業製品の輸入が増え始め、国内の製造業は衰退し、現在では輸入が輸出を6割以上も上回るようになった。この結果、労働人口では20%程度にまで低下している。それでもなお航空宇宙、情報通信、医薬品などのハイテク分野では依然として優位に立っている。工業にかわって商業とサービス業が成長し、総生産の4分の3を占めるようになった。金融、通信、放送、娯楽、運輸、ソフトウェアなどが特に発達している。成長しつつある国々は、アメリカへ工業製品を輸出し、その黒字でドル資産を買っている。これがアメリカを潤し借金をしてまで過剰な消費を続けるというサイクルが、世界経済の大きな流れになっている。いっぽうで“グローバル化”の名のもとに世界各国に経済の自由化を求めたことは、投資機会の拡大をもたらし、アメリカの投資家は多大な利益を得ている。

## 多文化共生⑪

### チュニジア共和国

Republic of Tunisia

チュニジアは1956年フランスから独立。

国旗は19世紀にこのあたりを支配していたアメッド1世がトルコ（オスマン帝国）の旗を手本につくったといわれるものをそのまま使っている。三日月と星は、この国がイスラム教徒の国であることを示している。



- ・人口 約1140万人
  - ・国土の面積 16万3610km<sup>2</sup>（日本の43%）
  - ・首都 チュニス Tunis
  - ・民族 アラブ人、ベルベル人、など
  - ・言語 アラビア語、フランス語
  - ・宗教 イスラム教、キリスト教、ユダヤ教、など
  - ・通貨 チュニジア・ディナール
- ・気候 沿岸部は地中海性気候で夏季は高温乾燥、冬季は温暖湿潤となる。中部はステップ気候、南部は砂漠気候である。
- ・産業 就業人口では1次産業は2割強、2次産業が3割強である。農業では、北部で小麦、オリーブ、果実、野菜が栽培され、中部で牧畜がおこなわれている。沿岸ではマグロ、イワシなど漁業もおこなわれる。地下資源は石油、リン鉱石、鉄鉱石を産出する。  
工業は繊維産業に加え、機械部品や電気部品の製造もおこなわれるようになった。砂丘と古代遺跡を有し、観光地としても人気がある。

## 多文化共生⑫

### 日本国 Japan

日の丸は戦国時代に旗指物として用いられたが、外国との通商が盛んになった明治時代に、太政官布告（明治3年）で国旗と定められた。民間では明治5年に太陰暦から太陽暦に変わったことを記念して掲揚された。日本国憲法には定められていないが、平成11年の（国旗・国歌法）により日の丸が国旗と定められた。



- ・人口 約1億2645万人
- ・国土の面積 37万7835km<sup>2</sup>
- ・首都 東京 Tokyo
- ・民族 日本人、アイヌ人、朝鮮人
- ・言語 日本語
- ・宗教 神道、仏教、キリスト教、など
- ・通貨 円

- ・気候 北海道を除くと温帯モンスーン気候で、一般的に気温の変化が大きく、四季の移り変わりがはっきりしている。6～8月は南東モンスーンにより高温多湿となり多量の雨がもたらされる。11～3月は北西モンスーンにより日本海側は豪雪、太平洋側は乾燥する。地形の複雑さから、気温や降水量は季節や地域による差が大きい。年間降雨量の平均は1700～1800mm。

- ・産業 農業人口はわずか4%にまで低下。主食の米はほぼ自給できているが、そのほかの作物は多くを輸入している。牧畜は飼育数が多いものの、飼料の多くは輸入に依存している。魚介類の摂取量は世界でもトップクラスで、沿岸から遠洋まで盛んに漁業がおこなわれてきたが、排他的経済水域が広まったため、輸入が増加している。鉱物資源は種類はあるものの微量なため、ほとんどを輸入している。比較的産出量の多かった石炭は、エネルギー構造の変化とコスト高のためほとんどが閉山された。

工業は19世紀末から加工貿易政策を推進し、繊維などの軽工業に始まり、鉄鋼、家電、自動車、電子機器へと、付加価値を高めた製品を大量に輸出し、世界でもトップクラスの加工貿易立国となった。しかし各国に対して大幅な貿易黒字が発生、経済摩擦を引き起こしたため、市場解放と輸入拡大が要求された。さらに円高も加わり、工業製品の輸入は増加している。